



あけましておめでとうございます。
 良いお正月をお過ごしでしょうか？
 今年が皆様にとって、より良い年でありますように・・・
 さて、今年初の十七文字です。
 今回もうさおさん、健さんから投句を頂きました。



まずうさおさんの句です。

わくら葉を折り敷き詰めて我が書齋

枯葉を敷き詰めて、そこを書齋にされたという事でしょうか？
 わくら葉は夏の季語になるので、落ち葉とか枯葉を使われると良いですよ。

*ざわざわと落ち葉敷き詰め書齋とす



寝転べば背に団栗の痛みあり

面白いです。ただ痛みあり・・・と言ってしまわないで、
 読み手に感じてもらいましょう。

*寝転べば背に団栗のまるみかな



葉の書齋しとせむように犬に説き

しとせむように・・・の意味が良くわからなくて・・・見当はずれな添削になる
 かも・・・うさおさん、意味を教えてください。

*愛犬に説けば書齋に落ち葉かな



日ノ本は冬来たりしも暖かし

本当に全国的にあたたかい冬です。日ノ本と言わないで日本と素直に言われ
 た方がすんなりと入ってきそうです。わかりやすい言葉とすんなりと胸に響
 く言葉をぎゅっと凝縮したのが俳句だと思います。言いたい事はとても良く
 解ります。素直に表現するとこんな風に。

*温暖のこの日本にも冬来る



葉を埋めし野に座して見る高き空

埋めし、座して、見る・・・動詞が多くなると雑然とした感じになってしま
 います。思い切って枯葉で埋まった野原は読み手に想像してもらいましょう。

*枯葉はらはらと見上げる空高し



続いて健さんの句です

甲羅干す亀の背中に秋の風

亀の甲羅干し・・・のどかな感じがします。甲羅と背中が少し付き過ぎと思わ
 れているとの事なので上五を少し変えても良いかも。

*並び居る亀の甲羅に秋の風

燈下親し名人戦の棋譜なぞる

難しい季語を上手に使っていらっしゃいますね。
秋の夜長に将棋の手を勉強されているのでしょうか、良い句です。

美術展迷路のごとき回廊に

美術館は本当に迷路のようです。美術展で何となく秋の感じは出ていますが
季をはっきりとされても良いのでは。

*迷路めく回廊秋の美術館

古雑誌束ねて捨てる今朝の冬

立冬の日の朝をうまく詠まれています。ただ、束ねて捨てるとすると、
中七がすっきりしないようです。切れ字で広がりを出しましょう。

*古雑誌束ねる朝や冬立ちぬ

*古雑誌束ねる紐や今朝の冬

冴ゆる夜のかぐやの撮す水の星

幻想的な素敵な句ですね。ムードもあり良い句だと思います。

数へ日の日ごとに分ける飲み薬

お上手です。季語の使い方、何気ない言葉なのに、人物まで見えてきます。

银杏散る扇模様の石畳

情景の見える良い句ですね。句に広がりを持たせるのなら

*黄落や扇模様の石畳

とされても良いかな、と思いましたが、石畳に银杏の葉がたくさん落ちているのなら
原句の方が良いですね。

いかがだったでしょうか？

うさおさんも健さんもいろいろな場所で、いろいろな角度から作句されています。
十七文字という限られた文字数ではすべてを言ってしまわずに、省略も必要なのだと
思うのです。自分の言葉で素直に・・・そして読み手に考える余地を与える。
次回はそういう事も考えながら作句してみてください。どんどん上達しているお二人だからこそ、次回作を期待しています。そして、皆さんもぜひ投句してみてください。
お待ちしております。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

動物園めく五匹みて去年今年（こぞことし）

帯ぼんと叩き仕上げの初鏡

ゆうこ

